

平成24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 楠見東小 学校
校長氏名	小谷 次男
作成日	平成24年12月9日

1 教育目標

正しい人権意識を持ち、豊かな知性と情操を身につけ、健康で自主性に富み、みんなと協力して力強く生きぬく子を育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	・保護者や地域の方々との連携を強め、学校運営に生かす。	・人やものに対する思いやりの心を育てる。 ・正しいと思うことに進んで取り組み、最後までやり抜く子供を育てる。	・国語科を中心に、基礎・基本となる力を身につけ、内容を読み取る力を育てる。 ・課題に意欲的に取り組み、自ら学び考えていこうとする力を育てる。

取組の状況【D】	・総合的な学習の時間や子どもセンター事業等に積極的に地域の人材を活用する。 ・民生児童委員との懇談会をもち、情報交換を図る。 ・学校便りを地域配布(回覧板利用)し、情報を発信する。 ・本校が会場となる楠見地区防災訓練の開催に協力すると共に、参加し、地域住民の安全意識を高める。	・挨拶や掃除、その他日常的な学校生活が豊かに送れるように、人と人との関わりを大切にしている。 ・防犯パトロール隊「子育て支援ネットワーク楠見」の方々や児童の交流を図る。 ・地域の介護老人施設エスポワールとの交流を深める。 ・地域在住の特別支援学校児童との交流を深める。	・「東タイム」を利用した継続的な取り組みをおこなう。 ・「読み取りの力」をつけるために、国語科を中心に、校内授業研究や実践をおこない、検証する。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実を図る。
取組の成果と課題【C】	・学校だよりを各世帯に配布することにより、地域住民にも学校行事を知らせることができた。 ・楠見地区民生児童委員との懇談会を定期的に開催することにより、情報交換ができた。 ・楠見東小すこやかフォーラム(教育講演会)を行い、「子どものしあわせのために」大切なことを学んだ。	・朝夕に各地域や校門でのパトロール隊の方のお陰もあって、少しずつ挨拶ができるようになってきた。また、パトロール隊の方に感謝の手紙を届け、喜んでもらった。 ・介護老人施設やコスモス支援学校及び盲学校との交流により、子どもの人権意識の向上により効果を得ることができた。 ・樹木の伐採・剪定、仮設トイレの設置、図書蔵書等、環境整備ができた。	・東タイムの活用について現職教育で研修することにより、反復学習や読書活動の重要性を認識し、工夫改善が進みつつある。 ・各学年が国語科の研究授業をおこない検証することで、教師の授業力や児童の学力向上により効果を得ることができた。 ・図書室の窓・ドアを取り払いオープン化したことで、利用者が多い。 ・3年前から「家庭学習の手引き」の啓発を続け、徐々に保護者の理解・協力が得られてきている。
次年度に向けての改善方法【A】	・学校開放については、保護者や地域住民の人がいつでも学校に来てもらえるように工夫するとともに、各学年主催の集会についても案内をしていく。 ・地域の関係機関との連携をさらに深め、各行事等に積極的に参加する。 ・25年度本校が中心になる楠見地区文化のまつりが成功するように準備していく。	・感謝の気持ちを表したり、人と関わったり社会のために役立つような活動をするといった、コミュニケーション能力や社会性を培う取り組みを推し進めていく。 ・将来に夢や希望をもたせる取り組みや自尊感情を育てていく研修を図っていく。 ・「太陽光発電」や「トンボ池」の活用を図りながら環境問題について意識させていく。	・東タイムの活用をより具体的に進め、検証していく必要がある。 ・基礎学力テスト等の分析をきめ細かくするとともに、学力向上の手立てを全教職員で考えていく。 ・各学級に在籍する特別支援が必要な児童に対して、個別にカルテを作り、個に応じた指導の徹底をより一層図っていく。

3 その他の課題

・虐待、不登校等の家庭環境にある児童への対応については、各々の家庭における複雑な課題もあり、すぐさま成果を期待するのは難しい面もあるが、児童理解を一層深めるとともに、学校が楽しい受け皿となるよう、魅力ある学校にしていかなければならない。和生大のスクールボランティアの協力があり大変助かっている。また、スクールソーシャルワーカーや関係諸機関とも連絡を密にしながら取り組んでいきたい。